

平成29年度 学校通信

広徳小だより

学力特集号
平成29年11月20日
北九州市立広徳小学校
校長 小椎葉 義明

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

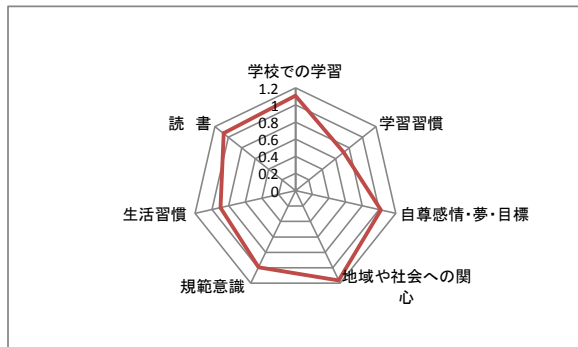
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	漢字を正しく読むことやことわざの意味を理解し自分の表現に用いることはできていた。無回答数も、全体的に少ないことから、解答しようとする意欲が高いことが分かる。漢字を正しく書くことや考えの共通点や相違点について整理して話し合うことの力を高める必要がある。	下回っている
国語B	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめることは、できていた。長い文章を注意深く読むことや読解力を付ける必要がある。要約することや、条件に合わせて、決められた時数で文章をまとめる力に課題がある。	下回っている
算数A	B問題に比べて正答数は多い。二つの数の最小公倍数。乗法で表すことができる二つの数量関係については、よく理解できていた。位をそろえて計算することなど基礎の計算力を高める必要がある。	下回っている
算数B	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する問題は、よくできていた。文章題の意味の理解や、資料の読み取りに課題がある。自分の考えを説明する記述問題や状況に応じた表現方法や文章力を付ける必要がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

学校の規則を守り、友達と仲良く過ごそうとする児童が多い。家庭学習に関しては、「家で、宿題をしていますか」の項目に対しては、100%の児童が肯定的な回答をし、意欲的に取り組んでいることが分かった。しかしながら、自分で計画を立てて勉強することや自ら課題を解決するために、情報を整理し発表するなど自分の考えを説明したり文章にしたりすることについてのポイントが低く、苦手意識を持つ児童が多いことが判明した。自尊感情が高まり、将来の夢や目標を持っている児童が9割を超える。学習習慣の向上を図りたい。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

学校全体では、国語科、算数科ともに、基礎的・基本的な内容の定着を図る為、朝自習で「わくわく算数タイム」「広徳漢字検定」の取組を実施している。また、各教科において自分の考えを書く力や友達と交流する時間を設定するなど表現力の向上をめざしている。学年では、単元計画を立て、児童の書く力を高めることができるように学習プリントを作成したり、付箋を使って友達と考えを伝え合うなどの工夫をしたりしている。学級では、児童の実態に合わせた話し合い活動を各教科で位置づけ、自分の考えを発言したり、友達のと比べ、よい考えを導き出すなど、授業改善を図っている。また、書く力を高めていく為に、日記や今週のニュースなど日常生活を振り返り、文章にまとめる活動を重視していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

毎日、決まった時間に就寝したり朝食を食べて登校したりしている児童が10%上昇している。地域や社会で起こっている問題や出来事にも関心を示してきている。そこで、各学年での徳力小学校との交流やいきいき広徳まつりなど、地域とのつながりを大切にできるような活動を充実させている。総合学習では、近隣大学との交流や地域産業からGTを招くなど、地域に目を向けた取組を行い、学校での学びが家庭で生かされるよう力を注いでいる。家庭学習の充実については、宿題だけでなく、低学年では、国語の教科書や「ひまわり」の音読活動に力を注ぐよう指導し、高学年では、理科や社会科、総合学習に於いて、個人の課題に応じ、図書館の書籍や新聞、情報機器から得た情報をまとめるなど、調べ学習の推奨を行っている。